PIXEL
COMPANYZ INC.

平成 30 年 12 月 21 日

各　　位

会　社　名　ピクセルカンパニーズ株式会社
代表者名　代表取締役社長　吉田　弘明
(コード番号　2743　JASDAQ)
問合せ先
役職・氏名　取締役管理本部長　山元　俊
電　　話　03-6731-3414

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 12 月期（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日）において、特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。あわせて、平成 30 年 2 月 14 日付「平成 29 年 12 月期　決算短信」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1．特別損失について

①個別決算

ⅰ債権放棄損

当社は、連結子会社であるピクセルソリューションズ株式会社（以下、「PXS」といいます。）に対する貸付金の内、マイニング事業に関連した ASIC の取得に要した費用のうち 99 百万円を債権放棄し、債権放棄損 99 百万円を計上いたしました。なお、個別決算上で計上される当該損失は、連結決算において相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

ⅱ貸倒引当金繰入額

当社は、PXS に対する貸付金 669 百万円について、長期的には回収を図るものの、当該債権の回収可能性について、合理的かつ保守的に検討した結果、貸倒引当金繰入額 426 百万円を計上いたしました。当該貸倒引当金繰入額の計上により、PXS に対する貸付金は全額貸倒引当金を計上しております。なお、個別決算上で計上される当該損失は、連結決算において相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

②連結決算

ⅰ減損損失

PXS は、PXS の所有する固定資産（マイニングマシン）について、ビットコインの市場価格の大幅な下落及びハッシュレートの急騰等により、市場及び事業環境の変化に伴う収益性の低下による減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、75 百万円を減損処理し、減損損失を計上いたしました。

当社は、PXS の業績がマイニングによる利益を除く営業利益 132 百万円（当初予想）から 192 百万円減少し 60 百万円の営業損失となる見込みとなったことから、超過収益力を合理的かつ保守的に検討した結果、同社に係るのれん 152 百万円を減損処理し、減損損失として計上いたしました。

ⅱ貸倒引当金繰入額

PXS において、当社が連結子会社化する以前から存在した同社役員に対する貸付金 250 百万円に対し、当該債権の回収については長期的に回収を図るものの計画に変更が生じたことから、その回収可能性について、合理的かつ保守的に検討した結果、貸倒引当金繰入額 128 百万円を計上いたしました。なお、当該貸付金については、前期において、貸倒引当金繰入額 106 百万円を計上しており、当該貸倒引当金繰入額の計上により 234 百万円の貸倒引当金を計上しております。

２．業績予想の修正について

平成 30 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 4,785	百万円 100	百万円 45	百万円 10	円銭 0.60
今回発表予想（B）	2,378	△1,125	△1,184	△1,571	△85.65
増減額（B－A）	△2,406	△1,225	△1,229	△1,581	
増減率（%）	△50.29	－	－	－	
(参考)前期連結実績 (平成 29 年 12 月期)	11,325	△1,244	△1,432	△2,670	△206.34

３．修正の理由

【再生可能エネルギー事業】

棚卸資産として計上していた小形風力発電施設の認定 ID 取得等に係る費用を「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき評価を行い、平成 30 年 12 月期第 2 四半期において棚卸資産の評価損 64 百万円を計上しており、当該損失分を補うため営業活動に努めてまいりましたが、静岡県太陽光発電案件において工事の遅延から年内に引渡しを予定していた太陽光発電施設が翌期にずれ込んだことや宮崎県太陽光発電案件及び鹿児島県太陽光発電案件の系統連系が来年 1 月にずれ込んだことから売上高が当初計画である 2,310 百万円から 587 百万円減少し 1,723 百万円となる見込みとなりました。また、販売経費等のコスト削減に努め当初予想を下回っているものの、売上高の減少や全体的に仕入原価が高騰したこと等により売上総利益の額が減少し、利益においても当初予想セグメント利益 195 百万円から 324 百万円減少し 129 百万円のセグメント損失となる見込みとなりました。

【IR 事業】

マカオ市場における販売準備については、BMM testlabs における適合を受け、パートナーである LT Game Limited から DICJ への申請を行い、カジノゲーミングマシン RGX-1000 シリーズ開発第 1 弾全 4 タイトルについて DICJ から承認される等順調に推移したものの、他の地域での販売が進まなかったことや韓国及びベトナムのカジノ施設に導入したカジノゲーミングマシンのトライアル期間が長期化していること等により、当初計画では 800 百万円の売り上げを予定しておりましたが、当期における売上高の計上には至らない見込みとなりました。また、ゲームタイトル等の開発に係る研究開発費や販売経費等が先行したことにより、利益においても当初予想セグメント利益 53 百万円から 494 百万円減少し 441 百万円のセグメント損失となる見込みとなりました。

【フィンテック・IoT 事業】

仮想通貨関連事業（マイニング事業）において、採掘難易度（ディフィカルティー）の上昇やBTC レートの変動から当初計画していた追加投資の実施を行わなかったことや、投資済みの ASIC によるマイニングが計画を下回っております。また、金融機関向けの仕掛案件において顧客先での受入検収が翌期に期ずれしたこと等から売上高は当初計画である 1,617 百万円から 966 百万円減少し 651 百万円となる見込みとなりました。利益においてもマイニングの計画が下回ったことや、スマートコントラクトシステム受託開発におけるトークン開発原価を先行計上したこと等から当初予想セグメント利益 267 百万円から 451 百万円減少し 184 百万円のセグメント損失となる見込みとなりました。

また、上記「1.特別損失について②連結決算」のとおり、当期においてPXS 単体における業績が当初計画を下回る見込みとなったことから、超過収益力を合理的かつ保守的に検討した結果、同社に係るのれん 152 百万円を減損処理したことに加え、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、ASIC の未償却額 75 百万円を減損処理し、減損損失を計上したことや貸倒引当金繰入額の計上等により、親会社株主に帰属する当期純利益が減少する見込みとなりました。

当社グループは、各事業セグメントにおいて、計画達成に向け全社一丸となり尽力するとともに、計画未達分の積み上げとして「NEVULA プロジェクト」に用いるスマートコントラクトシステム受託開発の開発者報酬として受領したトークンの売却に向けた交渉を進めて参りました。しかしながら、期中での売却には至らない見込みとなり、当期の利益貢献にはつながらない見込みとなりました。

これらの結果、通期業績予想につきましては、売上高 2,378 百万円、営業損失 1,125 百万円、経常損失 1,184 百万円、親会社株主に帰属する当期純損失 1,571 百万円に通期業績予想を修正いたします。

なお、上記の業績予想につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は予想値と異なる可能性があります。

以上